



**Q** 昔から、わが家のトートローターの横には白色の香炉があり、正月やウマチーになると知らない人たちが勝手に上がり込みます。以前、怖いので鍵をかけたところ、「オバアの健康祈願に来ているのに非常識！」と逆ギレされました。線香やライターで火事にならないか、とても心配ですし、留守にできないため、おちおち家族旅行にも行けません。どうすれば白い香炉をなくして、勝手に上がり込む人たちが来なくなりませんか？  
(読谷村・Tさん・60代・女性)

**A** Tさん、自宅に知らない人が出入りするのはとても不安ですよね。多分、Tさん家のヤーシジ(家系)がムートウヤー(本家)とかナカムトウヤー(中本家)なのでしょうね。

**特徴 カミウコウル(神香炉)の**

Tさん家にある白色の香炉のことをカミウコウルといっています。沖縄では、台所のヒヌカンで使用したり、お葬式や初七日から四十九日までの期間に使用しています。このカミウコウルの白色という特徴は、ヒヌカン＝神、お葬式・初七日～四十九日＝喪中の象徴として、白色になっっているといえます。別の理由として、トートローターは遺族が敬いの中心となりますので、小規模ですが、

カミウコウルを敬う方々が、地域住民・ムンチュウ(門中)・ナカムンチュウ(中門中)が中心となる時、その人数は膨大になりますので、トートローターの紺色の香炉と区別するため白色の香炉を使用するといえます。ということ、勝手に上がり込む人たちは、Tさん家とヤーシジを同じにされる方々であり、全くの他人ではないということになります。

**ムンチュウなどの会議に相談する**

このようなどき、Tさんの判断のみで「自宅へ勝手に上がらないでください」とは、なかなか申し上げにくいものですよ。といいますが、その昔、当時の方々がいろいろと打ち合わせをされて、Tさん家にカミウコウルをウンチケー(案内)されたという状況が想像されるからです。

そのため、個人的な問題としてとらえるより、親族の目上の方々やムンチュウ・ナカムンチュウ・郷友会などの役員の方々に相談してみることがいい方法も一案かと思えます。当時の経緯を知る人と出会えばありがたいこととすし、そのお子さまたちの世代も、まだおられるのではないのでしょうか。結果、ケース・バイ・ケースではありますが、皆さんで寄付しながら、ムンチュウなどが所有している土地や建物があれば、そこにカミウコウルをウンチケーする

など、個人のご家庭だけに負担をかけない解決方法も多々あります。

ムンチュウなどの会議にご相談される時は、Tさん家のご心労は至極当然のことだと思えますので、そのままの現状をお話されてみてはいかがでしょう。ただ、このような会議は頻繁に開催されるものではないと聞きますので、今しばらくはカミウコウルのご供養を継続されることになりませんが、問題解決の第一として、決して自分一人で抱えることなく、多くの方々のジンブンを借りできればと思います。

**火気厳禁・ウサギムンのマナーを伝える張り紙**

解決までの期間、お参りされる方々から見える場所に、火気厳禁・ウサギムン

のお持ち帰りのマナーなど、防災面・衛生面に配慮していただく張り紙を準備していただくことも有効かもしれません。とあるご家庭のムンチュウ・グワン(門中のお仏壇)の壁に貼られていた言葉に、『火災の心配があるため、ウチカビはご自分で燃やさないでください。あとで私が責任を持ち、大切に燃やしますので』とありました。このように、現状のお気持ちをお伝えすることも時には大切かと思えます。

なぜ、Tさん家にムンチュウ・ナカムンチュウのカミウコウルの可能性がある白色の香炉があるのかは不明ですが、当時、Tさん家がムンチュウ・ナカムンチュウの中心的な役割を果たされるなど、大変ご貢献された、あたりがたいご家庭であったことが容易に想像されます。あるいは、行き場がなくなり、ヒジュールウコウル(冷香炉)という無縁仏や無縁神になるべきところをご自宅に引き取られたのかもしれない。このような判断は、とても立派なものであり、Tさんたちご家族にあつても、ぜひ誇りをお持ちになつていただければと思います。小職も、一刻も早いご解決を心よりお念じ申し上げます。

